

女性会

「田辺ミニフェスタ」

J.A.わかやま女性会 紀南地域本部田辺ブロックが10月25日、ファーマーズマーケット紀菜柏と連携した「田辺ミニフェスタ」を開き、約1500人が来場しました。

本取り組みは、管内農産物の消費拡大と国消国産運動の展開を促すことを目的に、紀菜柏と連携し行っています。当日は、新米を使つた梅じゃこおにぎり（先着200食限定）も無料配布しました。

ぎわいました。

女性会員による地元野菜や雑貨類の販売コーナーをはじめ、ガラス細工の塗り絵やリース作りなどが楽しめる体験コーナー、ガラガラ抽選会、キッチングカーなど、多くの人でに

地元野菜の販売などを通じ来場者と交流する女性会員

梅とミカンどうぞ

小中学校74校に贈呈

子どもたちに紀南の特産物に親しんでもらおうと、

紀南地域本部は今年度も11月から12月にかけて、田辺から串本までの小・中学校74校に梅干しとミカンを贈呈しました。

贈呈は今回で18回目。贈呈式は田辺市立鮎川小学校、白浜町立西富田小学校、上富田町立朝来小学校、すさみ町立周参見中学校、串本町立串本小学校と、うつほの杜学園小学校の6校であります。

6年生児童代表の小原楓彩さんからは「梅とミカン、どちらも大好きなので食べるのが楽しみです。ありがとうございます」との言葉がありました。

この活動は地域貢献活動の一環として、J.A.共済の協力を得ています。



児童代表に梅干しとミカンを贈呈する大炭本部長と佐武副本部長（鮎川小で）

異常気象の中で



原 大輔
紀南地域本部
営農部長



梅では、暖冬による早期開花により不完全花が増え、着果量が減少し凶作となつた年もありました。

今後も温暖化が進行する年にわたって栽培されるため、気候変動の影響を受けやすいと言われています。

特にみかんは適温域が年平均気温15～18度と狭く、気温上昇が栽培に大きな影響を与えると考えられます。

そんな中、異常気象対策に向けて関係機関では色々な対策が検討されています。高温でも品質低下が起きにくい栽培技術、新しい高温耐性品種の開発・導入も検討されています。

「今年は秋がやつてくるのか？」と思うほど異常な暑さが続きましたが、この原稿を執筆中の11月上旬にはようやく秋らしい季節を迎えていました。

大炭本部長からは、本県の梅とミカンの生産量について、ミカンは20年連続、梅は60年連続日本一であることを説明。「梅は60%以上、ミカンは約25%のシェアを占めており、J.A.から出荷されるミカンは選果場の糖酸度センサーによっておいしいものだけを選びすぐつて出荷されています」と話しました。

気象庁によると今年の夏（6～8月）の日本の平均気温は観測開始以降、最も暑い年となり、9～10月にかけても平均気温よりかなり高く推移しました。

気候変動による異常気象は、農作物に大きな影響を及ぼします。

夏秋期の高温により、かんきつ類では生理落果の増加、果実の日焼けや着色不良、浮皮の発生、水稻では高温による白末熟粒（心白粒・腹白粒・背白粒等）、野菜類・花き類では生育不良等が増加しています。

J.A.の大炭敦史本部長と佐武範彦副本部長が梅干しと

入できる技術や品種構成の見直し等も検討していくければならないと思つていてます。

今後も続く気候変動に対応するため長期的な視点での対策を進めています。

紀南地域版

1月の農作業

◆土づくり
先月号でも掲載したが、マルチ被覆や木熟栽培は樹体への負担が大きい日を選んでチッ素主体の葉面散布剤（尿素・あざやか等）500倍液を7～10日間隔で3回以上散布して樹勢回復に努める。

◆土づくり
収量を安定させ、高品質なみかんを生産するためには、健全な細根を多く発生させ、樹勢を維持するため

収穫後の樹体管理が次年度以降の生育に影響するため、まずは冬期の基本管理を行い、健全な樹体づくりに取り組む。

◆樹勢回復

弱く、対策をまだ行っていない園地については、1月中旬頃までに暖かい日を選んでチッ素主体の葉面散布剤（尿素・あざやか等）500倍液を7～10日間隔で3回以上散布して樹勢回復に努める。

◆整枝・剪定

梅

秋から剪定作業が進んでいると思うが、作業が遅れるほど不要な枝に養分が分配され、貯蔵養分の無駄遣いとなる。開花時期までには剪定作業を終了するように取り組もう。無剪定の場合、その年の着果量は多くなるが、新梢の伸長が少なくなり樹勢低下につながる恐れがある。作業が遅れ、開花が始まると剪定は行おう。



○灰星病

病原菌は蕾や花に感染し枝を枯死させると結実不良になる。特に山林に隣接する園地で発生が多く見られる。多発園では防除を行おう。

◆病害虫防除

○ノコメトガリキリガ（ハナムシ）

開花期に蕾や花を食害し、多発すると結実不良になる。特に山林に隣接する園地で発生が多く見られる。

水 稲

◆土づくり

前作の未熟な稲株や稻わらによる障害を避けるため、秋冬期に耕起し腐熟促進を行う。年内に荒起こしができていない場合は、早めに行う。また、稻わらの腐熟を促進するため、石灰窒素を10ルア'当たり20キロ施用することも有効である。

（営農課・栗栖昌央）

の土づくりは欠かせない。
施用資材は、10ルア'当たりバーク堆肥2～4トン、苦土石灰100キロ、BMようりん60キロ、FT-E6キロを基本とする。

◆土壤管理

梅は好石灰植物で、適正pHは6～7と高い。12月までに石灰の施用を行っていない圃場では基準量を参考に施用しよう。

◆交配用ミツバチの設置

ミツバチ巣箱の設置に際しては、

①日当たりの良い場所に置く②巣箱の出入口は南向きにする③雨水が入らないよう出入口をやや低くするなどの注意が必要となる。

設置中はミツバチ保護のため薬剤散布は厳禁である。また、開花前の防除も、巣箱の設置場所への十分な気配りが必要である。

◆整枝・剪定

スモモ

重なるため、開花前までに防除を行おう。

（中央営農経済センター・羽根巧朗）

（営農課・栗栖昌央）

野菜

◆レタス

○温度管理

この時期はトンネル被覆による温度管理を行う必要がある。トンネルの両裾を、昼間は開けて換気し、夜は閉めて保温する。また、トンネルは密閉したままと葉の徒長やタコ足、腰高球などの原因となるため注意する。

○水管理

乾燥は異常球の原因となるため、結球期までは適宜かん水を行い、結球期以降のかん水は控えめにする。

◆ウスイエンドウ（露地春採り）

○整枝

整枝で太陽光の透過を良くすることで収量増加や病気を抑制する効果が期待できる。1ドル当たり25~30本を目指し、霜害に遭う場合を考慮し、少し多めに残し、霜害リスクが少なくなる3月に仕上げる。

○追肥

草勢の低下は、さやの肥大を抑制するため、追肥を行う。つるの上部の新芽が出た位置から花が咲くまでの距離や節間が短くなつくると草勢が低下している目安となる。2番花が咲いた頃と、満開時を目安に追肥を施用する。

◆ソラマメ

○整枝

主枝を4~5本に整枝した後も株元からわき芽が発生するため、見つけ次第摘み取るようにする。

○摘花

健全であれば1節に5つほど花がつくため、上側の3花は摘み取り、下側の2花を残す。

(営農課・栗栖昌央)

花き

◆病害虫防除

花きでは、低温多湿条件下で発生が多くなる病気や、活発に活動を続ける害虫があるため、気象条件に応じた対策が必要となる。

基本は、病気が発生しにくい環境にするため、ハウス・トンネル栽培では、日中の換気をこまめに行う。露地栽培では、高畠にするなどの排水対策に努める。そのうえで、薬剤散布が必要な場合は、次の点に注意して防除する。

①同じ薬剤の連続散布は避け、成分の異なる薬剤をローテーションで散布する。

②薬害防止や、薬剤効果を高めるため、晴天の午前中に散布する。

③露地栽培では、降雨後に病気が発生しやすいため、降雨直後の防除に

努める。

○アブラムシ類

低温でも活動するため、厳寒期のハウス・トンネル栽培でも発生が見られる。直接被害の他に吸汁により、ウイルス病を媒介させる恐れもあるので注意する。近年、モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ等の薬剤抵抗性のある種が問題となっている。薬剤の選択と発生初期の防除に努める。

○コナガ

熱帯から高緯度地方にまで分布する害虫で、成長が早く年間発生回数も多い。低温でも成長を続ける。また、薬剤抵抗性の事例も多い。枝・茎を食害されると大きな被害となる。定期的に各種薬剤をローテーションで散布する。

○コナジラミ類

ハウス栽培では、周年発生し、年間の発生回数は10回を超える。

幼虫が葉を吸汁する他にウイルス病の媒介や、多発時には、すす病による汚れが発生する。各種薬剤をローテーションで散布する。

薬剤については、営農経済指導担当者に相談する。

病（トルコギキョウ）の防除薬剤については、11・12月号

花木

○ダニ類

葉の表面に濃緑色の斑点がモザイク状の症状にでる。外観が損なわれ商品価値が著しく低下する。発生時の薬剤防除が基本となるが、冬期（1月中旬頃まで）に晴天が続く暖かい日を選んでマシン油乳剤を葉裏にかかるよう散布することで、春以降の発生を軽減できる。

薬剤については、営農経済指導担当者に相談する。

カイガラムシ類の防除薬剤については、12月号を確認する。

(串本支店営農経済・谷本三佐行)

6月に植え付けた サツマイモ

周参見小が
収穫体験



すさみ町立周参見小学校は10月24日、児童らが6月に植え付けたサツマイモを約200kg収穫し、児童が持ち帰る分と調理実習で使用する分を残してアドベンチャーワールドの動物にプレゼントしました。11月4日には児童らが同施設を訪問し、アフリカゾウ等への餌やりを体験しました（詳細は15ページ）。

※みかん、中晩柑、梅、スモモ、水稻の防除薬剤や施肥肥料は、旧JA紀南令和7年栽培暦を確認ください



1/16 JA総合相談会

(弁護士・税理士による無料相談会)

- 相談会場 紀南地域本部
 - 相談時間 9時～12時
 - 問合せ先 金融部(☎0739-23-3516)



田辺農林水産業まつり開催

うめえ料理コンテスト表彰も

「第38回田辺農林水産業まつり」が11月9日、田辺市の扇ヶ浜交流広場カラッパークで開かれました。

雨天での開催となりまし

たが、糸州田辺うめ振興協議会主催の「第2回うめえさく料理コンテスト」で入賞した小・中学生への表彰式のほか、女性会による梅うどんのふるまい、女性会や青年部、JA職員による農産物や加工品の販売、〇×クイズ、神島高校「神島屋」による出店等がありました。恒例の農産物品評会では215点が出揃いました。品評会の入賞者は次のとおりです。(敬称略)

県知事賞＝米田壯伺（温
州ミカン、稻成）▽県議会
議長賞＝関矢睦（キヤベツ、
三栖）▽県農林水産部長賞
＝峰尚弥（甘柿、長野）▽
西牟婁振興局長賞＝田中圭

氏名 大久保 陽平
新部署 加工部 営業課 万呂加工場
旧部署 加工部 営業課
フルーツファクトリー



令和7年末～令和8年始 JAわかやま紀南地域本部

支店・事業所の年末年始営業のお知らせ

○=平常どおり営業 休=休業(休止) ☎=電話での受付(24時間対応) 時間記載=営業(稼動)時間変更

	事業／日程	12/29 (月)	12/30 (火)	12/31 (水)	1/1 (木)	1/2 (金)	1/3 (土)	1/4 (日)	1/5 (月)
	紀南地域本部・営農経済本部	○	○	休	休	休	休	休	○
金融事業	支店窓口・ローンセンター	○	○	休	休	休	休	休	○
	ATM	○	○	○	○	○	○	○	○
共済事業	交通事故受付	○	○	△	△	△	△	△	○
	故障・レッカー移動受付	○	○	△	△	△	△	△	○
購買事業	ガスに関する受付	○	○	△	△	△	△	△	○
	中央営農経済センター	○	○	休	休	休	休	休	○
	支店(店)営農経済窓口	○	○	休	休	休	休	休	○
給油所 (JA-SS)	中央・とんだ・鮎川	○	○	~18:00	休	休	8:00~17:00	○	○
	日置	○	○	~18:00	休	休	休	~18:00	○
	中芳養	○	○	休	休	休	休	休	○
	上芳養・三栖・栗栖川	○	○	休	休	休	休	休	○
	三川・佐本	○	休	休	休	休	休	休	○
販売事業	各選果場・集出荷場	各選果場・集出荷場にお問い合わせください。							
直売所	ファーマーズマーケット紀菜柑	○	○	休	休	休	休	休	~17:30
加工事業	各加工場	休	休	休	休	休	休	休	○
店舗事業	紀南地域本部のAコープ全店	○	○	○	休	休	10:00~18:00	○	○

※紀菜柏は、1～2月の2カ月間、17：30閉店となります。
※~~△~~マークのお問い合わせ先は、右記の通りです。

通帳・キャッシュカードの紛失・盗難時	☎0120-167-831
交通事故の受付等	☎0120-258-931
レッカーカー移動・故障時等	☎0120-063-931
ガスの受付	☎0737-52-8864

ふれあい広場



すさみ町周参見

しも むかい 下向井 まき子さん(写真中央)

気軽に集い、食を通じて元気になれる そんな場を作ろうと「地域食堂」を運営

すさみ町で地域食堂を運営しています。立ち上げの際もあまり“困難”とは感じず、あるもので工夫しながら始めました。地域の皆さまの協力に支えられ、今では昼と夜それぞれ月1回、さらに遠隔地域への出張食堂や、自立運営を目指した「Qola食堂」も月1回開いています。

食材は町内の農家や漁師から仕入れ、野菜くずは畑に戻して再び食堂へと循環させるといった、自然とのつながりを大切にした取り組みも行っています。

食を通じて、人・山・川・海・畑がひとつにつながり、笑顔がめぐる町へ——。その思いを原点に、持続できる仕組みをつくりたいです。

ENJOY
セカンド
ライフ

すくすく
Memory



上富田町朝来

にしだ しゅう 西下 栄くん(1歳)

今月の きなん産地人

生産者
紹介

田辺市中芳養

ひらやま のぶる
平山 昇さん

応援隊の協力でマルチ被覆を開始



就農11年目、現在は梅40㌃、ミカン1㌶、スモモ10㌃を栽培しています。就農前は会社員をしていましたが、実家で農業を続けていた両親が高齢となってきたこともあり、農家の長男として「このまま廃業するのはもったいない」と決意しました。

昨年からはミカンのさらなる品質向上にと、マルチ被覆を開始。作業はJAの選果場従業員らで構成する「マルチ被覆応援隊」に依頼しており、本当に助かっています。

最近の思い出は、10月13日に閉幕した「大阪・関西万博」に行ったこと。フィリピンパビリオンが特に印象深かったです。また野球観戦が好きなので、大谷翔平選手の活躍にはいつも注目しています。

何にでも興味津々！活発に成長中/ 産まれたての弟を「よしよし」も

明るくて活発という栄くん。最近は保育園にお迎えに行くと下駄箱から自分の靴を持って走ってきたり、「これして」や「あれ取って」などと言うと理解してくれるようになってきたんだって。とにかく何にでも興味津々で、今はアンパンマンが少し気になり始めたみたい。

10月に弟が産まれたから、お兄ちゃんになったんだ！まだ小さな弟の頭を「よしよし」って撫でてあげたり、かわいがっているんだって。

とにかく健康で、
ご家族から一言
元気に育ってね。

地域本部の JA職員です



中央営農経済センター
営農指導担当 (新庄地区)

はね たくろう
羽根 巧朗さん

家庭菜園を楽しんで、タマネギとブロッコリーを栽培中です。今後は葉物野菜のトンネル栽培に挑戦してみたいです。



総合選果場 荷受け担当(新庄集荷場)

こやま たいが
小山 泰加さん

段取り等で迷惑もかけましたが、何とか梅の荷受け作業を終えることができ、達成感に満ちています。趣味は釣りで、これまでの一番の大物は85㌢のブリです。